さんにち ＮＩＥ ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

規格外ブドウで成長剤

商品化へ峡東地域で検証

東京の農業資材企業

農業資材の開発などを手がける「ＡＧＲＩ　ＳＭＩＬＥ（アグリ　スマイル）」（東京）は、ＪＡフルーツ山梨と共同で通常廃棄される規格外のブドウから成長剤「バイオスティミュラント」を作る取り組みを始めた。農家が出荷できないブドウを大量に廃棄する際のコストを抑え、生産量の拡大にもつなげる。年内に峡東地域のほ場で効果を検証する。

〈山本昂輝〉

成長剤「バイオスティミュラント」の材料となる、通常は廃棄される規格外のブドウ（ＡＧＲＩ　ＳＭＩＬＥ提供）

同社によると、バイオスティミュラントは欧米を中心に注目を集めている新しい農業資材。動植物由来の抽出物や微生物の代謝物などから作る。同社はパプリカやネギなどからバイオスティミュラントを作り、肥料の吸収を助けたり、病原菌への耐性がついたりする効果を確認したという。

同社は昨年、ＪＡフルーツ山梨からブドウの提供を受けてバイオスティミュラントの開発に着手。現在熱や圧力をかけて液体を抽出するなどさまざまな製造方法の検討を進めている。今後研究室でブドウの生育に与える影響などを分析し、年内に栽培現場での効果を検証する方針。

同社は「県内で排出される規格外のブドウは年間約３千トンと推定されていて、一部を除いて大部分が廃棄されている」という。廃棄されるブドウから成長剤を作ることで、廃棄にかかる費用を削減しながら、生産性の向上につなげられる可能性がある。

ほ場などでの効果検証が終わり次第商品化を図る。将来的にはブドウを栽培する海外の国への展開も検討している。

同社の担当者は「ＪＡフルーツ山梨からは開花異常の予防効果も期待されている。さまざまな方面からの分析を進め効果を証明した上で商品化につなげたい」と話している。

（2024 年 2 月 27 日付 山梨日日新聞 7 面）

問1　農業資材「バイオスティミュラント」には、どのような効果があると確認されていますか。

問2　東京の企業と共同で、ＪＡフルーツ山梨は、何を使って「バイオスティミュラント」を作る開発を始めましたか。

問3　商品化によって、ＪＡフルーツ山梨には、どのような利点がありますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.